

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3093942号  
(U3093942)

(45) 発行日 平成15年5月23日 (2003.5.23)

(24) 登録日 平成15年2月26日 (2003.2.26)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A 0 1 K 95/00

識別記号

F I

A 0 1 K 95/00

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数2 書面 (全4頁)

(21) 出願番号 実願2002-7891 (U2002-7891)

(22) 出願日 平成14年11月8日 (2002.11.8)

(73) 実用新案権者 593093180

株式会社高商

埼玉県川口市上青木西1丁目4番21号

(72) 考案者 高橋 義行

埼玉県川口市上青木西1丁目4番21号 株式会社高商内

(74) 代理人 100066212

弁理士 松丸 国雄

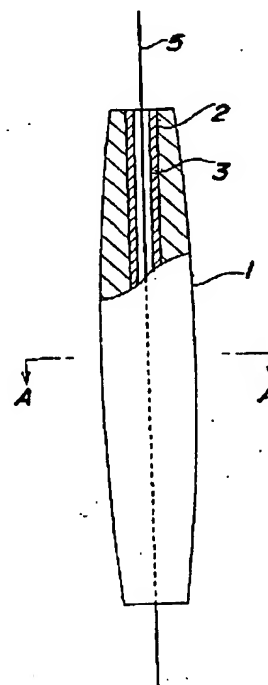
(54) 【考案の名称】 釣の中通し用おもり

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 釣糸の損傷を防止する糸滑りの良好な釣用おもりの提供。

【解決手段】 おもり本体1の糸通し孔2内に、ウレタンパイプ等の細管3を挿嵌固定した。

【効果】 細管3内を道糸5を通すようにしてあり、糸滑りが良好で、しかもソフトな接触感が得られ、道糸の損傷が防止され且つ中通し用おもりが途中でひっかかったりすることなく円滑に遊動し、中通し用おもりの安定度が向上するばかりでなく、塗料のはげ落ちがなく、道糸の損傷防止と中通し用おもりの安定性を保障し得る利点を有する。



1

2

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 鉛製で中芯部長さ方向に貫通する糸通し孔2を穿設してなる細長状のおもり本体1と、前記糸通し孔2の内周面にウレタンパイプ等の細管3を挿嵌固定してなる釣の中通し用おもり。

【請求項2】 前記糸通し孔2の内周面に、ビニールパイプその他耐水性で柔軟性を有する資材からなる細管3を挿嵌固定してなる請求項1記載の釣の中通し用おもり。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 要部を示す一部切欠正面図

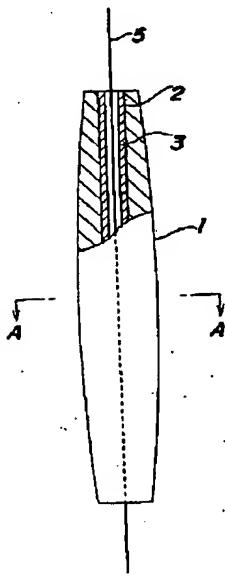
【図2】 同上A-A断面図

【図3】 使用状況を示す斜視図

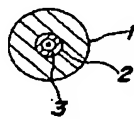
## 【符号の説明】

- 1 おもり本体
- 2 糸通し孔
- 3 細管

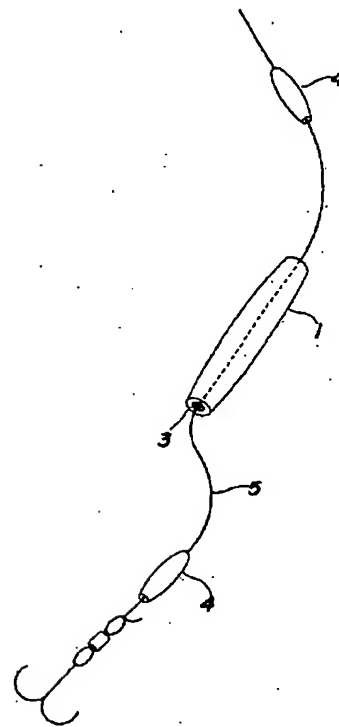
【図1】



【図2】



【図3】



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【考案の属する技術分野】

本考案は、中通しおもりの安定と道糸の損傷を防止する釣の中通し用おもりに関するものである。

## 【0002】

## 【従来技術】

釣糸に遊動可能に通してある中通し用おもりにおいては、おもりの遊動時に釣糸を損傷する虞れがあり、これを解決するために、従来品の中には、糸通し孔の内周面に塗料を塗ったものがある。

## 【0003】

## 【考案が解決しようとする課題】

前記糸通し孔に塗料を塗ったものは、ある程度の効果は得られるが、完全な製品としては不充分であり、反覆使用中に塗料がはげ落ちて釣糸を著しく傷つけるばかりでなく、おもりの滑りが悪く、中通しおもりの安定性が著しく欠如されることになる。

本考案は、前記従来品の欠点を一掃し、釣糸の完全な保護と中通し用おもりの安定性を向上させるため開発した新規の中通し用おもりの提供を目的としたものである。

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

本考案は、前記の目的を達成する手段として、鉛製で中芯部長さ方向に貫通する糸通し孔2を穿設してなる細長状のおもり本体1と、前記糸通し孔2の内周面にウレタンパイプ等の細管3を挿嵌固定した。

## 【0005】

## 【考案の実施の形態】

本考案の具体的な構成を図にもとづいて説明すると、細長い鉛製のおもり本体1の中芯部長さ方向に糸通し孔2を貫設し、この糸通し孔2内にウレタンパイプ3を接着剤によって挿嵌固定する。

又、糸通し孔2には、前記ウレタンパイプ3の他にビニールパイプ或いは耐水及び柔軟性を有するパイプ3を挿嵌固定することもある。

尚、図中4は道糸5上に固定したストッパーであって、このストッパー4間で中通し用おもりが遊動するようになる。

【0006】

【考案の効果】

本考案は、糸通し孔2の内周面に、ウレタンパイプ或いはビニールパイプ3等の細管3を挿嵌固定し、この細管3内を道糸5を通すようにしてあり、糸滑りが良好で、しかもソフトな接触感が得られ、道糸の損傷が防止され且つ中通し用おもりが途中でひっかかったりすることなく円滑に遊動し、中通し用おもりの安定度が向上するばかりでなく、従来の塗料を付着した製品のように塗料のはげ落ちがなく、道糸の損傷防止と中通し用おもりの安定性を保障し得る利点を有するものである。